ファーマーズセンター ふれあいホール災害用トイレ 見学記

11月7日(水)に『**七ツ塚ファーマーズセンターと市民の森ふれあいホールの災害用マンホールトイレ**の見学会』に参加しました。

七ツ塚ファーマーズセンターは、農業者と市民の交流を図り、農あるまちづくりを推進するためH24年10月13日に開所されました。

駐車場にマンホールトイレを設置しました。テントの間口は80センチぐらい。(市民の森ふれあいホールにて)

(東光寺地区では古くから七ツの古墳がある事が知られており、七ツ塚と呼ばれていたそうです。)

主な設備

○貸　室
有料で、車椅子の方も利用できる安心設備の明るい調理室、多目的室が二部屋。(隣室とフラットフリーでつながり、スライドドアで一部屋としてホールになります。)

○販売コーナー
日野産を中心とした農産物や加工品、ＪＡ商品、新選組ゆかりの地・会津若松市などの特産品、地元ニーズに沿った商品などが並んでいました。
喫茶コーナーもあり、早速、特製こまつなジュースを飲みました。おいしかったです。

他にも、農機具置場や外部作業場(土間スペース)があり、交流農園を利用した農のイベントが実施できるようになっています。この様な交流センターが出来たことで、これからの日野の農あるまちが守られて行くことを嬉しく感じました。

屋根に太陽光発電のパネルが設置されている。店内は明るく、棚の高さが低いので品物が取りやすい。

市民の森ふれあいホールに移動し、災害用マンホールトイレの見学をしました。

日常は管理用駐車場としての場所にマンホールが設置されており ました。現在、車椅子対応型トイレが1台、洋式トイレが9台備蓄されているそうです。災害時には マンホールの蓋をあけ、上部にトイレを設置。同時にテントも設置すると、外部と遮断された個室になります。

汚物を流す時は、ふれあいホールの建物外壁に給水栓があり、そこから繋いだホースの水を使います。ひとりひとりトイレに座ってみました。これなら、ゆっくりと安心して使用が出来、素晴らしいと思いました。でも、近辺住民の方しか利用出来ないため、日野市内複数地に設置される事を希望して帰ってきました。

(石戸　泰子)

学習会報告

「語り合おう　放射線への心配・疑問」

11月23日、高木学校(＊)の板橋志保さんを講師に放射能の学習会を行いました。震災から1年8か月が経ちましたが、がれき受け入れへの反対や学校給食への心配など、放射線への不安は消えていません。そこで改めて放射線の基礎、気を付けたいことなど講師が市民の疑問・不安に直接答える対話形式の学習会を行いました。

放射線の低線量被ばくにはこれ以下なら安全と言うしきい値は存在しません。低線量の被ばくをすると時間が経ってから一部の人がガン等の病気になりますが、線量が増えれば病気になる人も増えます。子どもたちは被ばくに対して特に感受性が高いため注意が必要です。

私たちは花崗岩などの自然放射線を既に浴びていますが、それ以上に更に被ばくすることはできるだけ避けた方がよいのです。ＣＴ検査などの医療被ばくも必要性の低い検査はやめるべきです。

その他、安全を強調する専門家の国際基準を無視する発言や、食品に関して陥りやすい間違いなどのお話がありました。講師は、将来何かあって手遅れになるよりは慎重になった方がよいこと、また不安なものに対し自分で考えることが大切であると強調されました。(原発と放射線を心配する会 出沼)

＊高木学校　市民の手に科学を取り戻すため1998年に故高木仁三郎さんにより設立され、市民科学者を育成している。

大島に本を送りました

前号で伊豆大島の移動図書館『ひまわり号』への本の寄付をお願いしたところ、たくさんの本をいただき、ダンボール28箱分を無事大島に送ることができました。

大島でもとても喜んでいただいています。

ご協力ありがとうございました

単行本	543冊
文庫・新書	654冊
合計	1197冊

その他　千代紙・羽子板など

東京都に常設の住民投票制度を！

都議会で否決された「原発」都民投票条例の32万を超える都民の意思をつなげるために、市民グループ「住民投票を成功させる会」が立ち上がり署名活動をおこなっています。
生活者ネットワークも署名活動を展開中です。ご協力ください！
(お問い合わせは日野ネットまで)

屋根に太陽熱温水器を取り付けている家がたくさんありました。

バイオガスの圧力計が台所のガスコンロの上にあり、使用できるか一目でわかる。

中国雲南省麗江への環境視察 その①

古池　はつみ

11月中旬に、中国雲南省麗江で農村地域に広がる再生可能エネルギーの普及を手助けしている環境団体の活動を視察しました。また、小学校での環境教育を見学しました。

雲南省では、これまで廃棄していた家畜の糞や農業ででる茎や葉などの廃棄物をバイオガス化し、調理に使う事業をすすめています。同時に、太陽熱温水器を設置し、お湯を使うことで、環境面はもとより衛生面を重視した取り組みが行われています。すでに雲南省全域で２０１１年までに２５０万軒の農家で導入しています。国の補助は３／４で残りが自己負担です。町を歩くとあちこちに太陽熱温水器があり、多くの家庭に普及していることを実感しました。メンテナンスについては「雲南エコネットワーク」というＮＧＯ団体が一軒一軒回って支援しています。きめ細かい支援にとても感動しました。

(次号につづく)